

いま、社会が君たちの力を必要としています！



法学部長

かない  
**金井**  
たかじ  
**貴嗣**

今、日本の社会は、大きな変革期にあります。戦後形成された政治・経済等、さまざまな制度が「制度疲労」を起こして、改革が求められています。制度を担うと同時に、制度の見直しに携わる人材の養成についても改革が進められています。この4月に始まる法科大学院も、その一つです。国際化や情報化が進展する中で、国際取引に係わる紛争に対処できる弁護士、研究開発・技術革新にも詳しい裁判官や弁護士が、必要とされています。公務員等、他の職業についても、事情は同じです。少

子高齢化に伴って社会保障制度や高等教育制度の見直しが求められています。企業も、国際化や技術革新の進展に対応できる「組織の再編成（リストラクチャリング）」を迫られています。

日本の社会がどのような仕組みに

なっていて、今、どのような方向に変わろうとしているのか、君たちはどのくらい、知っていますか。国際社会に目を転じてみると、さまざまな変化が生じています。

本を読み、人の意見を聞いて、自分の考えをまとめ、それをわかりやすく主張することができずか。外国語でコミュニケーションすることができずか。今、そのような知識や能力がなくてもいいのです。大切なことは、是非、大学で、そのような能力を身につけて、私たちの社会が良くなるように、勉強に励んでほしいのです。

4年間は、「あつ！」という間に過ぎてしまいます。大学生活を有意義に過ごしたかどうか、その後の人生に大きく影響します。勉強することとは、誰のためでもなく、君たち自身のためです。

学ぶことの大切さと 楽しさを



経済学部長

こぐち  
**小口**  
よしあき  
**好昭**

全国から、そして海外から経済学部に入學された皆さん、おめでとう。ご父母の皆様にも、心からお祝い申し上げます。

経済学部は来年、学部創設100周年を迎えます。目下、いろいろな記念行事を実施していますが、その一つとして、今年後期から3年連続で、OBからの寄附による寄附講座がスタートします。大企業のトップをはじめとする多彩な講師陣が、皆さんに生き生きとした経済の動きを語ってくれます。また、在学生からの記念論文を募集しますので、ぜひ応募してください。

ところで、経済学部で一体何が得られるのでしょうか。受験勉強から解放された今、ふっとそんな思いに駆られているのではないのでしょうか。何が得られるか。どのような成果が生まれるのか。それは、皆さんが何

を得ようとするのか、そのために自分からどのような行動を起こすにかかっています。

いろいろな分野で、経済学の力をつけた人材が必要とされています。企業で活躍するためにはもちろんのこと、公認会計士などの職業会計人や法律家にも経済に強い人材が求められています。今年4月に開校する法科大学院いわゆるロースクールは、経済学部出身者が法律家になることを期待しています。そこで経済学部は、法科大学院に進学するために学部を3年間で卒業できる早期卒業制度を設け、経済に強い法律家として活躍する諸君を応援します。大学時代は、自由な時間がたくさんあります。自立した良識ある市民へと成長するために、経済学部での4年間に、学ぶことの大切さと楽しさを大いに味わってください。

# 大学生としての自己責任の自覚



商学部長  
酒井正三郎

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

今日から皆さんは大学生です。これからは、皆さんが行うすべての選択には自己責任がともないます。大学には高校と違って手とり足とりといった指導はありません。大学では他人に迷惑を及ぼすものでないかぎり、個人の意見や行動は完全に尊重されます。したがって、ここではつねに自己責任が問われることとなります。

それではこの自己責任とは何でしょうか？ 実際の学生生活の文脈にそくして具体的に考えてみると、私はさしあたり、これは次の三つの能力や作法を身につけることを意味するといえるのではないかと、思います。

第一は、主体性です。これは、自分の本当にやりたいこと、興味の在り処を自覚し、これから進むべき道

を自分で考える、ということなのです。

第二は、論理的思考力です。これは、ものごとを因果関係にそって筋道立てて考える力、首尾一貫性を持つて整理する力である、ということができます。自己責任とは、自分の在り方を論理的に把握する、そうした姿勢の中からしか生まれえないものであるからです。

そして第三は、創造的批判能力です。議論等をつうじて自分とは別の見方に気づき、多様な視点への配慮を持ち、ぶつかり合う価値観の中で自己の相対化ができる人間になる。換言すれば、これは他人からの批判に対してきちんと自己を修正していける能力、ということなのです。

図書館やITセンター、また学識経験豊かな教職員の存在など、中央大学には以上の三つの能力や作法を身につけるために必要な人的・物的条件はそろっています。

皆さんが、これらを活用して、自己責任を自覚した大学生へと成長されますよう心より祈念しています。

# ブレイクスルーのときは、まさにいま…



理工学部長  
風間 重雄

光の三原色を発光する光源があれば、すべての色を表現できます。これまで半導体デバイスの発光源として、赤色と緑色の発光ダイオード(LED)は二〇年以上も前からいろいろなところで使用されてきましたが、青色LEDが実用化されたのは、ごく最近のことです。その効率的な製造方法の発明をめぐって、現在はアメリカのカリフォルニア大学サンタバーバラ校教授の中村修二さんが発明の対価として二〇〇億円を請求していた裁判で、全額を認める判決が出され、その金額の大きさからも急に青色LEDの存在と重要性が一般の人々にも知れわたりました。

實用可能な青色LEDを窒化ガリウムという取扱いの困難な素材を用いて最初に開発した赤崎勇・現名城大教授も、ほとんどの研究者が他の素材に移っていったとき、「ひとりでは無人の荒野を行く」という境

地に陥りながらも、ここにこそ『正解』があると信じて研究に邁進したということです。中村さんも、小さな企業の研究室で多くの困難とたった一人で闘いながら、独創的な方法で様々な障碍を乗り越えていったのです。

このようなすげえれた研究の背後にあるのは、決して潤沢な資金や豊富な人材ではありません。研究というのは、必ず停滞するものです。その停滞を打ち破るブレイクスルーは、中村さんがよく言うように、『可能性を信じること』『他人のやっていたことは、決してやらないこと』『他人のちからを当てにしないこと』『というような独立心があつてはじめて生まれてくるものです。』

理工学部に入學した皆さんにとって、人生のブレイクスルーのときはまさに、いまこのときです。自分の課題を見つけ、その『正解』を決してだれかに期待することなく、自らの手によるブレイクスルーを期して努力して下さい。

# 明日への飛躍



文学部長  
まつお まさひと  
**松尾 正人**

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学での新たな出発の緊張と異なる開放感の中で、皆さんの胸にはさまざまな思いが交又しているかもしれません。

これから始まる大学生時代、人生の最も可能性に富み、明日への飛躍につながる貴重な糧を得る期間です。歴史を学んでいると、明治・大正・昭和の時代を生きた人々の日記や手紙を読むことがあります。長い人生の間には、戦争や経済恐慌、あるいは身近な不幸や騒動が存在します。

しかし日記や手紙からは、そのような困難に直面した時の処し方、生きて行く人生観が十代の終りから二十代のはじめに形成されるように感じられます。

皆さんの大学生時代は、戦争やテロの危機、地球規模で深刻化した環境問題、かつてない高齢化社会など、

多くの政治、社会、経済の課題が存在します。いずれも、無関心ではいられない問題でしょう。そのような課題に対しては、多くの書物を読み、さまざまな機会を通じて世界の動きを追いかけ、皆さんなりにその解決策を考え、柔軟な頭脳で模索してみてください。

また、大学は幅広い教養を身につけるとともに、専門的知見を培うところです。実社会と異なった場で、さまざまな知識を蓄え、自由に物事を考え、グローバルな視野に立って研究することができます。哲学や歴史など、専門的分野を研究することで、学問の重要性、面白さを知ることができるでしょう。

皆さんが学生時代を有意義に過され、明日への飛躍につながる成果を得られることを、祈念しております。

# 「ラーニング」と言うこと



総合政策学部長  
おおはし まさかず  
**大橋 正和**

英語では、高校までの教育を「エデュケーション」といい、大学以降の教育を「ラーニング」と区別する。エデュケーションとラーニングの違いは何かというと自律的に学習できるかどうかの違いである。高校までは、教科書がありそれに従って勉強をし、ほとんどの問題は、解答が存在する。

大学の教育がラーニングと呼ばれるのは、自律的に学習する方法を身につけるとともに問題の発見、問題の解決方法などにより新たに知識を創造する方法を学ぶことにある。しかし、学問には体系がある。たとえば、数学という学問の体系を考えると、数学がよくわかる。順番に積み重ねをしないと理解できない。1度理解できなくなるとそれから先はついて

いけない。数学嫌いを作り上げることになる。ラーニングで大事な点は、個々の体系を学ぶばかりでなく学問に関する考え方やものの見方といった個別の事実からその原因や考え方を追求し普遍化された共通の原理や理論を見つけ出すことである。大学で学んだことの中で細かい事実を忘れてしまふことはあってもこのような基本的考え方やラーニングの方法は忘れないものである。大学で学ぶと言ふことは、授業ばかりでなく課外活動や授業期間外にも学び(ラーニング)の姿勢を忘れないでほしい。

どうか諸君の大学生生活がエデュケーションではなくラーニングであることを願ってやまない。